

オンラインシンポジウム 科学技術とリスク どう考え、どう伝えるか -キラーロボットの問題を考える視点-

主催:  CAMPAIGN TO STOP
KILLER ROBOTS

 S.A.L.
KEIO UNIVERSITY



キラーロボットとも呼ばれる自律型致死兵器システム(LAWS)は、人間の介入・操作なしに攻撃目標を定め人を殺傷することができるAI兵器です。核兵器に次ぐ兵器革命をもたらすと警告されるLAWSは、いまだ実戦投入はされていないものの、米国やロシアなど十数カ国が開発中で、近い将来の実戦利用が懸念されています。こうした動きを前に、LAWSが実戦投入される前に禁止条約を作ろうという国際的な動きが進んでいます。本シンポジウムでは、LAWSの開発・使用が提起する可能性のある様々な問題を、科学的、法的、政治的な側面からとりあげ、特に若い世代の皆さんに幅広くLAWSの問題について考えてもらうことを目的とします。

開催日時

2020

7月11日(土)

14:00-15:30

*オンラインによるイベントとなります。
PC・スマホなどに、事前にZoomの
ダウンロードをお願いします。参加用
URLは、イベント前日までにお送りします。

パネリスト

(登壇者順・敬称略)

- 鈴木達治郎 長崎大学教授・PSET幹事会代表
- 土井香苗 国際人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ
日本代表
- 遠山清彦 衆議院議員 (ご出席予定)
- 学生代表 慶應義塾大学公認学生団体S.A.L.
- 河合公明 戸田記念国際平和研究所主任研究員
・PSET幹事会幹事(モデレーター)

[スピーカー・
プロフィール>>](#)



参加方法

参加をご希望の方は、
下記のリンクまたはQRコードより、
参加申し込みをお願いします。



<https://bit.ly/3bKfotg>

お問い合わせ:
国際人権NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ
担当:左 (Email: hidarig@hrw.org)

主催

[\[キラーロボット反対キャンペーン\]](#)

2013年から始まったキラーロボット反対キャンペーンは、武力行使において人間による有意義な制御の維持を訴える、数々の市民社会組織による国際キャンペーンです。キラーロボット反対キャンペーンには日本から、[特定非営利活動法人難民を助ける会\(AAR\)](#)、[国際人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ\(HRW\)](#)、[特定非営利活動法人ヒューマン・ライツ・ナウ\(HRN\)](#)、[特定非営利活動法人地雷廃絶日本キャンペーン\(JCBL\)](#)と[創価学会インタナショナル\(SGI\)](#)等が参加しています。



[\[学生団体 S.A.L.\]](#)

[学生団体S.A.L.](#)は「学生が主体であること」を前提とし、国際問題に対する意識を深め、他の学生を啓発していくことを目的として2008年6月に発足した慶應義塾大学の国際問題啓発団体です。S.A.L. という名前には、Send out (国際問題を伝える)、Aid (助けを求めている人救う)、Learn (世界の現実を知る、学ぶ)という3つの意味が込められています。

協力

[\[先端技術と安全保障プラットフォーム\(PSET\)\]](#)

「安全保障と先端技術」に関心のある研究機関・グループが、それぞれの研究成果や情報を持ち寄り、共通課題について特定の立場をとることなく、技術的知見に基づいた自由な意見交換、建設的な対話を通じて、責任あるイノベーションと政策立案に貢献することを目的として設立されました。(ウェブサイト: www.pset.jp)

[\[日本パグウォッシュ会議\]](#)

日本パグウォッシュ会議は、核兵器廃絶と戦争の根絶を目指す科学者集団パグウォッシュ会議(1995年ノーベル平和賞受賞)の日本グループとして湯川秀樹、朝永振一郎らが中心となり1957年10月に設立された任意団体です。
(ウェブサイト: www.pugwashjapan.jp)